

うわじま道先案内人の会

宇和島の「ええところ」を
「みんなで」伝える



2009年、宇和島を訪れた人が気軽に道先を尋ねられる存在として、代表の三好さんが友人に声をかけて3人で「うわじま道先案内人の会」をスタートしました。現在は会員10人で年間100件以上の依頼に対応しています。ガイドの対象は市内全域ですが、1番人気はやはり宇和島城だそうです。多いときは1日3回も城山を登ることがあったそうです。旅行会社の依頼以外すべて無償で行っていて、有料で得た報酬も来訪者へのおもてなしの費用に充てています。6月にはその活動が評価され、県観光物産協会から表彰を受けました。ニーズに合わせて柔軟な対応をする一方「やれる範囲でやる」ということを大事にしています。ガイドも統一の方法はなく、会員それぞれのスタイルで行います。「自分たちが楽しみながら、それで喜んでもらえることが一番のやりがい」と口をそろえます。しかし目下の課題は会員の高齢化。「入会は大歓迎だし、自分たちとは別の形でもいいのでガイドをしてくれる人が現れてほしい」と願います。「もっと多くの人と一緒に、宇和島のええところを伝えていきたい」と話してくれました。